

エコアクション21

環境経営レポート

対象期間: 2017年4月～2018年3月



日本包装システム株式会社

発行日 2018年 8月 1日
作成者 飯塚 宣人

目次

表紙	P1
目次	P2
Ⅰ．会社概要・事業内容	P3
Ⅱ．環境経営方針	P4
Ⅲ．環境経営活動実施体制	P5
Ⅳ．環境経営目標	P6
Ⅴ．実績	P7 ～
Ⅵ．次年度の活動計画	P12 ～
Ⅶ．環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P14
Ⅶ．代表者による全体評価と見直しの結果	P15

I. 会社概要・事業内容

(1) 事業者名及び代表者名

日本包装システム 株式会社

代表取締役社長 池畠 正英

(2) 所在地

本社工場 〒379-2153 群馬県 前橋市 上大島町 182

共同工場 〒379-2154 群馬県 前橋市 天川大島町 1310-4

(3) 環境管理責任者及び事務局

EA-21責任者： 管理部 飯塚 宣人

EA-21事務局： 管理部 小宮 由香利

連絡先 TEL： 027-261-4455

FAX： 027-261-4456

E-mail： n.iiduka@nhs-1972.co.jp

(4) 事業活動の内容

紙製容器・包装資材の開発、製造および販売

(5) 事業規模 (2017年度)

主要製品の生産量： 1271 t

売上高： 612百万円

資本金： 6,000万円

従業員数： 48 人

延べ床面積： 3,715.03m²

(6) 対象範囲 (認証・登録範囲)

上記 (2) に該当する所在地と (4) に該当する活動内容

Ⅱ. 環境経営方針

環境経営方針

日本包装システム株式会社は、私たちの未来のため、
循環型社会の実現と環境負荷の低減を推進します。

1. 当社は事業活動を通じて、環境マネジメントシステムを構築し、環境目標・環境活動計画を定め全員参加で継続的な改善に努めます。
2. 環境関連の法令、規制を遵守するとともに、行政・団体・地域との協力体制を確立します。
3. 当社は環境に与える影響を考慮し、次の事項に対して優先的に取り組みます。
 - ① エネルギー使用量・水資源使用量の削減
 - ② 廃棄物の削減とリサイクルを目的とした分別回収
4. 当社は文化的生活の向上と環境負荷低減の両立を目指し、安全で効率のよい生産活動を追求します。
5. 社会の一員として環境保全に関する啓蒙・啓発に努めます。

この環境方針は当社全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します。

2009年4月1日
改定日 2016年4月1日
改定日 2018年4月1日

日本包装システム株式会社

代表取締役社長

池 島 正 英



Ⅲ. 環境経営活動実施体制

代表者(社長)	1. 環境経営方針の策定 2. 経営資源の準備
池畠 正英	3. 代表者による全体の評価と見直し 4. 環境経営レポートの承認 5. 環境目標及び環境経営活動計画の承認

	人員
一般	36
パート	12
合計	48 名

2017年4月現在

EA-21 責任者	1. EA-21システムの確立、実施推進、維持管理 2. 環境への負荷及び取組への自己チェックの実施 3. 環境経営目標及び環境活動計画の策定 4. 環境経営レポートの作成 5. EA-21に関する実績把握と報告 6. EA-21環境経営マニュアルの作成
飯塚 宣人	

対象範囲	本社工場	相川 利明	1.環境経営活動計画の策定と実施 2.問題点の是正処置
	営業部	小貫 敦	1.環境経営活動計画の策定と実施 2.問題点の是正処置
	管理部	森 克美	1.環境経営活動計画の策定と実施 2.問題点の是正処置
	総務部	高橋 正利	1.環境経営活動計画の策定と実施 2.問題点の是正処置
	共同工場	田島 和憲	1.環境経営活動計画の策定と実施 2.問題点の是正処置

EA-21委員会	1. 環境経営目標及び環境経営活動の結果確認 2. EA-21に関する審議
委員長：池畠 正英 飯塚 宣人・小宮 由香利・高橋 正利 森 克美・松本 宏志・田島 和憲・中田 純也	

EA-21事務局	1. EA-21責任者の補佐業務 2. 環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況確認 3. 教育、訓練計画の策定・実施（緊急時対応訓練 等） 4. 環境文書及び記録の作成、管理 5. その他EA-21に関する業務
小宮 由香利	

Ⅳ. 環境経営目標

当社の環境目標の設定は、2014年度のデータを基準として2015～2017年度の目標といたしました。

取組項目	2014年度実績 (基準値)	2015年度	2016年度	2017年度
電気使用量の削減	CO ₂ 換算 2.46kg/万円	1%削減	1.5%削減	2%削減
燃料使用量の削減	営業車使用燃料 (ガソリン・軽油) CO ₂ 換算 0.005kg/万円	1%削減	2%削減	3%削減
廃棄物の削減	①廃棄物(古紙回収) の削減 3.51kg/万円	0.5%削減	0.8%削減	1%削減
	②廃棄物(廃プラ) の削減 0.035kg/万円	0.3%削減	0.6%削減	1%削減
	③廃棄物量(鉄・ガ ラス・その他) の削減 0.02kg/万円	0.3%削減	0.6%削減	1%削減
水資源使用量の削減	0.012m ³ /万円	0.1%削減	0.2%削減	0.3%削減
グリーン購入の促進	16品目	2品目増	4品目増	6品目増
自らが生産・販売・ 提供する製品、及び サービスに関する 環境目標	_____	_____	_____	_____
化学物質使用量 の削減	_____	_____	_____	_____

V. 実績

環境目標に対する達成状況は以下の通りです。

- ※1. 実績値は、2017年度運用期間(4月～3月)の1年間と、基準年度2014年度の同月の値と比較する。
- ※2. 総量は4月から3月の1年間の合計とする。
- ※3. 単位は、売上金額1万円当たりの使用量とする。
- ※4. 購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数は0.378。
- ※5. ガソリンの二酸化炭素排出係数は0.0671。
- ※6. 軽油の二酸化炭素排出係数は0.0687。

実績 一覧

本社工場	2014年度基準値	2017年度実績値	達成率	結果
電気使用量の削減	2.46kg/万円	2.45kg/万円	100.68%	○
燃料使用量の削減	0.005kg/万円	0.004kg/万円	107.78%	○
廃棄物(古紙回収)の削減	3.51kg/万円	4.22kg/万円	79.95%	×
廃棄物(廃プラ)の削減	0.035kg/万円	0.046kg/万円	66.71%	×
廃棄物(鉄・ガラス等)の削減	0.02kg/万円	0.01kg/万円	151.90%	○
水資源使用量の削減	0.012kg/万円	0.010kg/万円	114.86%	○
グリーン購入の推進	16品目増	5品目減	88.37%	×

共同工場	2014年度基準値	2017年度実績値	達成率	結果
電気使用量の削減	2.01kg/万円	1.92kg/万円	104.50%	○
燃料使用量の削減	0.019kg/万円	0.025kg/万円	124.75%	○
廃棄物(古紙回収)の削減	4.86kg/万円	6.30kg/万円	70.45%	×
廃棄物(廃プラ)の削減	0.023kg/万円	0.040kg/万円	25.61%	×
廃棄物(鉄・ガラス等)の削減	0.023kg/万円	0.18kg/万円	35.80%	×
水資源使用量の削減	0.013kg/万円	0.009kg/万円	128.56%	○

電気使用量の削減

計画（本社工場・共同工場 統一計画）	結果	次年度	評価
未使用の電気、電源のOFF	○	継続	本社工場は紙皿成型機の長期生産品目の生産開始前倒しで、ピークの分散化を実施。 夏場のエアコン稼働によるピークカット対策は不十分。デマンド監視装置を利用した有効活用対策を検討、実施する必要あり。
エアコン温度の設定	△	継続	
トイレ便座の温度設定	◎	継続	
エアータオル就業時間外の電源OFF	○	継続	
空調フィルターの定期清掃	◎	継続	
デマンド監視装置の活用	△	継続	

◎良くてきた ○出来た △あまり出来なかった ×出来なかった

燃料使用量の削減

計画（本社工場・共同工場 統一計画）	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(2月)	◎	継続	車両の台数減少と新規車両の入れ替えなどの効果や、エコドライブ実践の継続により数値は良好。
燃料使用量・走行距離チェック	◎	継続	
エコドライブ講習会への参加	◎	継続	
燃料使用量・走行距離チェック	◎	継続	

廃棄物(古紙回収)の削減

計画（本社工場・共同工場 統一計画）	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(8月)	◎	継続	基準年度比で、昨年度と本年度の本社工場の廃棄量は大幅に増加。基準年度と比べて生産内容に変化があった事が要因。 共同工場は微増となる。 新基準指標の検討はデータ収集に課題あり。今後も継続して検討。
新基準指標の検討(歩留り率使用の検討)	△	継続	
分別廃棄の継続	○	継続	
私物ゴミ持ち帰りの徹底	○	継続	
調整時ロスの削減	○	継続	
ロスの早期発見と対応	△	継続	

廃棄物(廃プラ)の削減

計画（本社工場・共同工場 統一計画）	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(10月)	◎	継続	ストレッチフィルムの廃棄量が毎年増加傾向にある。また、その対応策も不十分に終わっている。 分別廃棄は概ね実施出来ている。 材料納品時のプラパレ化は、タイミングを見て交渉を重ねていく。
資源ゴミと一般ゴミの分別の徹底	○	継続	
ブランク納品時のプラパレ化を依頼	△	継続	

廃棄物(鉄・ガラス等)の削減

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(10月)	◎	継続	木製パレット・木くずの廃棄については、パレット回収業者により多く引き取ってもらう事で、数値が減少している。 抜型・面盤の廃棄の定期化は年間合計の数値にて増減を判断。
木製パレット・木くずの適正処理	△	継続	

◎良くてきた ○出来た △あまり出来なかった ×出来なかった

水資源使用量の削減

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(11月)	◎	継続	本社工場、共同工場ともに基準年度よりも数値減少を達成。 前年度の数値悪化で節水意識を再度向上した結果と考える。 手洗いや洗浄など、必要な事にはきちんと使用する重要性も意識していく。
節水継続意識向上の継続	◎	継続	
手洗い・糊つぼ洗い時に水を止める。	◎	継続	
成型工場の蛇口レバーを長い形状のものへ変更(検討)	△	継続	

グリーン購入の推進

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
グリーン購入品の促進	×	見直し	今年度は達成出来ず。しかし、購入回数は基準年度よりも増加。 但し、翌年度からの新ガイドラインにはグリーン購入の推進は対象外となっている為、自主的に取り組んでいく。

環境保全取組実施率の向上

① 管理者・従業員の教育

- ・9月1日に全社員で消火訓練の取り組みを行いました。



- ・毎月初日に全社員が集まり、環境に関するミーティングを実施



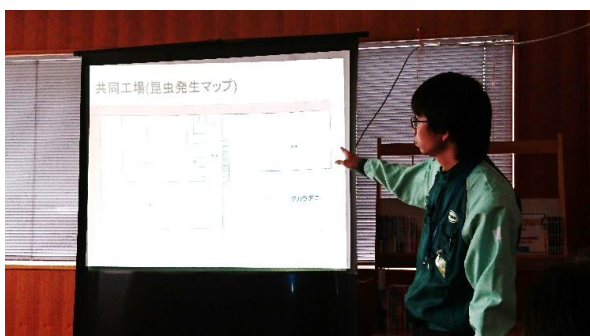
＜全体ミーティングの一例＞



- ・アース環境サービス社様による「防虫・衛生・品質関連」の講習



＜講習の様子＞



- ### ② その他、入口に「アイドリングストップ」の表示をして、当社出入りの業者さんに対して環境保全活動の協力依頼をしています。

その他の環境への取り組み事例



室内温度の管理対策



工場内の古紙回収の分別表示



節水表示



節電表示

★2017年度に行った環境への効果が見込める取り組み★

- ① 本社工場の紙皿成型機を1台新規入れ替えをしました。
- ② 本社工場の一部天井工事の際に断熱材を入れました。
- ③ 営業車両を本社工場では新規に1台導入し2台廃棄、共同工場でも1台新車と入れ替えました。

FSC® COC認証の取得

2018年3月9日に弊社は「FSC COC認証」を取得しました。FSC森林認証の目的である、適切な管理が行われている森林から産出された木材(認証材)を利用して生産された製品(パルプ)を使用するという事は、弊社の環境経営方針の考えに近いと考えます。

＜弊社FSC認証情報＞

認証登録番号 : SA-COC-006218
 ライセンス番号 : FSC® C140095
 認証発行日 : 2018年3月9日
 有効期限 : 2023年3月8日



化学物質使用量の削減

定期的(7月・11月・3月)に保管場所と管理方法の確認を行いました。

V. 次年度の活動計画

当社は、環境への負荷を低減するために、以下の活動を実施していきます。

(1) 電気使用量の削減

- ・未使用の電気、パソコンモニタの電源OFF
- ・エアコン温度の設定
- ・トイレ便座の温度設定(夏季：OFF、冬：ON)
- ・エアータオル就業時間外の電源OFF
- ・空調フィルターの定期清掃
- ・デマンド監視装置活用によるピークカット
(季節ごとに1時間毎に数値を測定)
- ・電気管理業者のサポートによる使用電力削減

(2) 燃料使用量の削減

- ・燃料使用量・走行距離チェック(3カ月毎)
- ・営業車にエコドライブ支援装置を取付
(支援装置の結果を元に対象者へ講習)
- ・エコドライブ講習会への参加
- ・燃料使用量削減の取り組み発表(2月)

(3) 廃棄物の削減(古紙回収)

- ・新基準指標の検討(歩留り率使用の検討)
- ・分別廃棄の継続(本社工場・共同工場)
- ・私物ゴミ持ち帰りの徹底
- ・不良率の削減
調整時ロスの削減
ロスの早期発見と対応
- ・不良率低減の取り組みを発表(6月)

(4) 廃棄物の削減(廃プラ・鉄・ガラス他)

- ◎廃プラ／鉄／ガラス他 共通事項
 - ・資源ゴミと一般ゴミの分別の徹底
(一般ゴミ内の資源ゴミ混入防止の徹底)
 - ・廃棄物の削減の取り組みの発表(8月)
- ◎鉄／ガラス他
 - ・使用済み蛍光灯の廃棄・管理の徹底
 - ・ブランク納品時のプラパレ化納入の依頼を交渉

(5) 水資源使用量の削減

- ・水資源使用量削減の取り組み発表(12月)
- ◎本社工場
 - ・節水継続意識向上の継続
(手洗い・糊つぼ洗い時に水を止める)
 - ・成型工場の蛇口レバーを長い形状のものへ変更検討
- ◎共同工場
 - ・節水継続意識向上の啓蒙啓発
 - ・2階手洗い場の蛇口レバーを長い形状のものへ変更検討

(6) グリーン購入の促進

- ・グリーン購入法に対応した品物の購入の継続

(7) 環境保全取組実施率の向上

- ・毎月1日に全体ミーティングにてEA21の取り組み発表や環境教育等を実施
- ・アース環境サービス社様による「防虫・衛生・品質関連」の講習を予定（7月）
- ・避難訓練「地震による避難訓練」（9月）
- ・緊急事態対応訓練の実施（11月）
- ・施策の成果と反省（3月）

(8) 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境目標

- ・新製品の設計を行う際に効率的で無駄の少ない割り付けを心掛け、原紙のロスを軽減します。
- ・新製品を生産する際に、環境に配慮した材質、リサイクルが可能な材質の使用を心掛けます。
- ・廃棄物の削減の施策として挙げた、新基準指標の検討(歩留り率使用の検討)を早急に具体化させる。

(9) 化学物質使用量の削減

- ・保管と管理の確認を定期的に行います。

Ⅵ. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関連する主な法規制は下表の通りです。
また、関連法規制の遵守状況確認を毎年1回実施しており、違反はありませんでした。
地域住民からのクレームもありませんでした。
同様に関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありませんでした。

主な適用法規	当社の対応	遵守状況
廃棄物処理法 循環型社会形成推進基本法 群馬県環境基本条例 群馬県の生活環境を保全する条例 前橋環境基本条例	廃棄物の削減 廃棄物の適正処置の確保 産業廃棄物保管基準遵守 廃棄物の飛散・流出・地下浸水の防止 産業廃棄物処理委託基準の遵守 産業廃棄物の委託契約書の記載事項の遵守 産業廃棄物管理票の管理義務	遵守確認済
エネルギーの使用の合理化に関する法律 (省エネ法)	エネルギー使用量の合理化義務	遵守確認済
特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	廃棄時の引き取り業者への 引渡し料金の支払い	本年度廃棄無し
フロン回収・破壊法	廃棄時の回収業者への引渡し	本年度廃棄無し
消防法(危険物関連) 前橋市火災予防条例	少量危険物貯蔵所設置の届出 基準在庫管理	基準在庫以下確認 廃止届け提出
大気汚染防止法 ダイオキシン類対策特別措置法 群馬県生活環境の保全等に関する条例	規制基準の遵守義務	規制基準以下の 為、適応外
容器包装リサイクル法	毎年度、その生産量に応じて 再商品化義務量の再商品化	遵守確認済
下水道法	排水基準の厳守	排水基準量以下 確認
CSR(社会的責任)調達 (トッパングループ)	エコアクション21に適応	遵守確認済
産業廃棄物管理表(マニフェスト)に 関する報告義務化	産業廃棄物管理表交付等状況報告書の記入 産業廃棄物管理表交付等状況報告書の提出	6月提出済み
騒音規制法	特定施設設置届出書の提出	遵守確認済
振動規制法	特定施設設置届出書の提出	遵守確認済
フロン排出抑制法	該当設備を管理者により定期点検	実施済

Ⅶ. 代表者による全体評価と見直しの結果

合併して4年が経過し、共同工場も認証工場として1年が経過しました。全社としてのデータの蓄積も進み、全体的に成果が上げられた年度だと思います。

売上高も前年より増加し、1万円当たりのエネルギー使用量としては目標値を達成しやすい状況でありました。しかし、古紙や廃棄物の排出量は増加傾向にあります。品質に対する要求レベルが依然として高いことが要因としてありますが、その中でも排出量を軽減する更なる工夫が必要となっております。

今期は、照明機器の入れ替えや、ビニールカーテンや天井の改修、そして営業車2台の入れ替えなど、軽微な改善が進んでおります。また期末に導入された紙皿成型機の効果は来期から出てくると思います。そして2年前より導入してきたIT機器により、数字に表れにくい省力化は進んでいると感じています。

基本的な方針の変更ありませんが、これからも人・組織が成長していくための設備やしくみづくりを導入するつもりです。

お客様の品質要求事項に答えながら、廃棄物の削減と合理的な生産活動の推進を実現したいと思います。

その結果、残業時間の短縮などで成果が目に見えることも大切だと考えています。

代表取締役社長
池畠 正英